

(件名) 令和3年度北海道フェアの開催について

報告者：主査 得能 淳一郎

道主催による令和3年度北海道フェアがサハリン州ユジノサハリンスク市、沿海地方ウラジオストク市において開催され、食品を中心とした約80品目の商品（内新規商品28品目）を販売しました。

【サハリン州会場 12月18日（土）、19日（日）10：00～18：00】

10時の開場とともにコメ・果物コーナーには行列ができ、コメの10キロ袋は開始1時間で予定数量を売り切りました。ロシアでも年末年始に果物を食べる文化があることから、パーティ用や贈呈品としてリンゴなどを箱買いする方の姿も多く見かけました。インスタントラーメンや焼き肉・しゃぶしゃぶのタレ、ポテトチップスなども人気商品でした。

来場者にインタビューしたところ「毎年フェアを楽しみにしている」、「商品の種類、量を増やしてほしい」など、フェアへの期待の声があがりました。また「コロナで北海道観光ができない分、たくさん商品を購入した」など、北海道への再訪を待ち望んでいる方も多かったです。

【沿海地方会場 12月25日（土）、26日（日）10：00～18：00】

サハリン州会場と同様、コメや果物に人気が集まりました。来場者の多くは日本に関心がある方でしたが、来場者の声を聞いてみると「北海道」の認知度、関心度はサハリン州会場よりも低いように見受けられました。沿海地方はかねてより新潟県や鳥取県などの日本海側の地域と交流があるとともに、主要都市である東京や大阪とも近い距離に位置しています。沿海地方にとっての北海道は、まだまだ「日本の一つの地域」という認識にとどまっていることから、今後より一層の北海道のアピールが必要であると感じました。

【全体を通して】

来場者の多くはフェアのリピーター、もしくは日本のファンであるという印象を受けました。そのような方々は少なくとも過去に日本と関わった経験があり、日本食に対し、「安価」ではなく「高品質」「非日常食」などブランド食としての期待が大きいように感じました。

一方で、来場者の中には日本に馴染みがなく、味噌やタレなどの活用の仕方を知らない方もいます。消費の裾野を広げるためには、食材の活かし方やレシピの紹介などを充実させ、日本食の良さを理解していただくことも必要です。

また、おいしいだけでなく、安全性や機能面でも日本食には優位性があると考えます。例えば日本では災害に備えた備蓄の重要性が広く認知されており、近年は北海道でも大変美味しい非常食が開発・製造されています。これらの新しい切り口で北海道の食品を紹介し、理解いただけると一歩進んだ食文化の浸透になるかと思えます。

サハリン州会場
(準備の様子)



サハリン州会場
(コメ、果物コーナー)



沿海地方会場



(件名) 第 22 回 日本語スピーチコンテスト実施について

報告者：主査 柳田 裕貴

第 22 回日本語スピーチコンテストを 12 月 15 日(水)、サハリン国立総合大学小ホールにて開催しました。

(1) 経過

このコンテストは、北海道と、サハリン州・サハリン国立総合大学との共同開催で第 1 回大会は 2000 年に行われ、今年が 22 回目となる伝統的なイベントです。生徒・児童の部には、11 名の生徒が参加し、自由なテーマで、1 人 3 分間、日本語でのスピーチを披露しました。大学生・社会人の部には、7 名が参加し、5 分間のスピーチに続き、質問員との会話力も審査の対象となります。日本語の文章を暗記し、それを大勢の聴衆の前で発表することは、日本語を母語とする私たちにとっても簡単ではありません。どのスピーチも、学習と練習を重ねた跡が垣間見えるものでした。途中、緊張のあまり文章を思い出せなくなってしまった参加者には、会場から励ましの拍手が送られるなど、心温まるシーンもありました。

(2) 今後について

サハリン州は地理的に近いこともあり、日本への関心が高い土地柄と言えます。今後も地元教育機関との連携を一層深め、北海道とロシアとの懸け橋となる人材の育成に取り組みます。

上段左 大学生・社会人部門知事賞 トウラコワさん テーマ：「21 世紀のスキルは何ですか？」

上段右 生徒・児童部門知事賞 シャラニさん：「なぜ紙の本が好き？」

下段 記念撮影

